

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2022年 2月 5日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」大阪狭山金剛校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		支援数が多い時は十分なスペースとは言えないが、指導員同士で相談し、支援場所の工夫をしている。	支援スペース等については法令順守しているが、今後も、指導員間の情報共有を密にし、より充実した支援を提供できるように活用スペース等の工夫に努める。
	②	職員の配置数は適切である	○			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ手前、ミーティング室に段差があり、必要に応じ注意喚起している。 ・待機場所が狭く、特に支援の入れ替わりの際に混雑が予想されるときは複数のスタッフで対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段差があることを分かりやすくするため、段差部分にカラーテープを貼るなどの工夫を検討する。 ・支援開始と終了の時間のズレを可能な限り少なくすることが課題。今後も時間のズレの解消とスムーズな誘導に努める。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート等で頂戴した意見はミーティング等で全職員で共有するとともに、課題解決に向けて方策等を検討し、業務改善に努めている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	相談支援事業所等の第三者機関との日常の	第三者による外部評価は受けていませんが、サービスの質

				話の中で評価にかかる意見を聞くようになっている。	の向上のため、今後も、相談支援事業所等の外部機関との連携の中で、評価にかかる意見を聞き、業務改善につなげていきたい。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○	日常的に情報交換に努め、より充実した支援につながる計画になるようにしている。	今後も、情報交換・意見交換を密に行い、課題の分析、充実した支援提供につながる計画作成に努める。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○	発達検査等については、保護者から提供していた場合に、職員全員で共有し、支援充実に活かせるようにしている。	きりりのアセスメントシートのさらなる活用に努めるとともに、提供していただいたツールを積極的な活用を図る。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○	情報交換を密に行い、プログラムの工夫・前回の支援とのつながりを大切に、個別で立案している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	個々の指導員の持ち味・得意を活かした支援を目指すことがプログラムの固定化しないことにつながっている。	今後も、支援内容等について意見交換や情報交換に努め、支援内容の幅を広げていきたい。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○	月曜開所で集団活動を可能な限り取り入れている。	週6営業(4月～)の月曜開所での取り組みをどう活かしていくかが課題。今後、研究を進めていく。

関係機関や保護者との連携	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員ミーティングや日常的に支援前の打合せ・確認をしている。	今後も、いつでも意見交換や情報交換ができる職場環境づくりに努める。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		翌日のミーティングや日常的に気づき等の共有をしている。	今後も、いつでも意見交換や情報交換ができる職場環境づくりに努める。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		ケースにより管理者と指導員と一緒に参加したり、指導員のみ参加している。	支援の時間と重なることが多く、指導員の参加が難しい時が多いのが課題。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		保健センターや市の子育て支援機関との連携に努めている。	定期的な取り組みに至っていないのが課題。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			現在、該当利用者がいないが、必要な場合は関係機関との連携していく体制はできている。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			現在、該当利用者がいないが、必要な場合は関係機関との連携していく体制はできている。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			保護者からの要望があったり、必要と判断した時は関係機関と連携する体制になっている。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			保護者からの要望があったり、必要と判断した時は関係機関と連携する体制になっている。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			

	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	個別支援であることから、保育園等との連携の機会設定が困難。	保護者様からの要望があれば、個別ではあるが連携し活動していく体制はできている。
	㉑	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		今後、地域等にかかれた「きらり」となるための方策を考えていきたい。
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		支援後の振り返りの時間の充実に努めている。	時間の確保が困難な時がある。事業所内相談支援のさらなる活用が必要である。
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		振り返り等の機会に個別に保護者の支援・助言を行っている。	パパ・ママカフェ等の機会に集団での学びを家庭に持ち帰って実践できるような機会をつくっていきたい。
保護者への説明責任等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に重要事項説明書等を通して説明し、理解を深めていただくことに努めている。	
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画の内容等を個別に丁寧に説明し、理解いただけるよう努めている。	
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		支援後の振り返りの際に不安なことや望まれることをお聞きしている。	時間の確保が困難な時がある。事業所内相談支援のさらなる活用が必要である。
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	パパ・ママカフェを開催。	今後も、いろいろなテーマで企画していく。
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ミーティングや日常の会話を通して、相談や申入れ内容の職員間の共有に努めている。	
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		掲示コーナーやミーティンググループにポスターを掲示したり、LINEで情報提供をしている。	

	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵付きのロッカーに保管するなど、取扱いに十分注意している。	PC画面にスクリーンセーバーをかけ、画面上の情報取扱いに注意するようにした。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	個別支援であるため地域住民を招待する機会設定が難しい。	見学等の要望があれば受け入れに向けて積極的に検討する。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			きりり内に掲示はしているが、アナウンス不足が課題。分かりやすくなるよう表示等を工夫する。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			個別支援であることもあり、利用者参加の訓練ができていないのが課題。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者より緊急時の具体的な対応方法についても、しっかりと聞き取りを行っている。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			おやつ提供はしていないが、イベント等で必要に応じ医師等と連携し取り組んでいく。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		その日の内にヒヤリハットの内容を共有するとともに、本部に報告している。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		全員が受講できないときは、必ず伝達講習ができるように努めている。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2022年 2月 5日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」大阪狭山金剛校 保護者等数（児童数）：23人 回収数：18人 割合：78%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	14	3	1	0	体を動かすとき狭いと感じました。	スペースは法令遵守していますが、今後も運動するときには、怪我等につながらないように、スペースに応じた活動内容をしっかりと考えてまいります。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	18	0	0	0	専門性は高く、こどもの気持ちを上手に活動に結びつけている。	今後も、支援方法・内容の工夫・改善に努め、資質向上に努めます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	14	1	0	3	換気の際に窓を開けているが、子どもが落ちないかと心配な時があった。	窓を開ける際は指導員がつくことを今後も徹底し、さらなる安全を図ります。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	17	1	0	0		
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	18	0	0	0		
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	17	1	0	0		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	17	1	0	0		
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	17	1	0	0	様々な活動が準備され、子どもも笑顔で取り組んでいる。	今後も、個々の指導員の得意や持ち味を活かした支援を提供させていただけるよう、職員間の情報共有に努める

						一つの目標に対して様々なアプローチができています。	とともに、個々の指導員の研究に努めています。	
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1	2	0	15		
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	18	0	0	0		
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	17	1	0	0		
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	5	2	0	11		
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	17	1	0	0		
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14	1	0	3	振り返りで対応方法等を助言してもらっている。	今後も、職員間の情報共有に努め、いろいろ観点からサポートさせていただけるよう努めます。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	1	4	12	コロナの心配がなくなったら、保護者の集まり等をしてみたいです。	パパ・ママカフェを開催いたしました。今後も、できるだけ開催し、その際に保護者同士が交流できる機会を作ってまいります。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	15	0	0	3		
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17	0	0	1		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	9	1	0	8		
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	14	0	0	4	子どもがPCに触れたり、机上で画面が表示されたままになっている。	個人情報が入力されているPCもあることから、調べ学習をする際に、指導員が必ず付くこと

								の徹底を図ります。また、PC画面にスクリーンセーバーをかけ、使用していないときは画面が見れないようにいたしました。
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	10	1	0	7		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5	1	0	12		
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	16	1	0	1		
	㉓	事業所の支援に満足しているか	18	0	0	0		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。